

セグロカモメの人工孵化・育雛

末廣 友里

当園では、1999年に野生由来のセグロカモメ *Larus cachinnans mongolicus* が導入され、ウミネコと同居で飼育している。2012年から産卵が見られ、人工孵化も試みられたが孵化には至らなかった。2017年の繁殖期前の時点では6羽（♂3、♀3）のうち、2ペアが形成されていた。同年、1ペアの卵を孵卵器に入れたところ6月29日に孵化（No. 12♂）し、園内で初繁殖となった。続いて翌年も2018年6月22日と26日に孵化（No. 13♂、No. 14♀）し、計3羽の人工孵化に成功した。

孵化日数は25日から28日であった。孵化した3羽のセグロカモメはそれぞれ孵化翌日より挿し餌を開始した。餌は、アジを成長に合わせて形状を変えながら与え、採食の様子を見ながら給餌頻度も変更した。育雛を開始してから3羽の体重はほぼ直線的に増加し、孵化後30日から35日齢で成鳥と同大となった。また、2018年生まれのNo. 13♂とNo. 14♀では孵化後14日齢頃より雌雄で体重に差がつき始めた。孵化後3週間経過した頃より飼育舎から展示場に連れて行き、徐々に他個体との同居を開始した。展示場のウミネコやセグロカモメが雛の頭上を飛ぶ様子に初めは驚いていたが、次第に慣れていき、特に問題なく同居ができた。